

項目	内容
開講年度	2023
講義コード	—
科目ナンバー	2017カリキュラム:[17]-[LIB]-[RSN]-2 2023カリキュラム:[23]-[LIB]-[GCF]-2
開講セメスター	秋セメスター
科目名(集計分野)	インターンシップ(共通教養科目)
プログラム名	SEND(Student Exchange Nippon Discovery)
担当教員	筒井 久美子(教育開発・学修支援センター)
実習地	ベトナム(ハノイまたはホーチミン)
単位数	4単位
備考	登録上限単位数に含まない/再履修不可
講義分野	共通教養科目
履修の目安	・日本語を母語とする者 ・セメスター:申請時点で第2セメスター～第7セメスター
授業概要	<p>【SENDについて】 海外教育インターンシッププログラム、SEND(Student Exchange Nippon Discovery)は、グローバル人材育成推進事業の一環として補助金を受け、実施されています。SENDの定義は「日本人学生が留学先の現地の言語や文化を学習するとともに、現地の学校等での日本文化の紹介活動を通じて交流することにより、学生自身の異文化理解を促すことを海外留学の目的と位置づけ、将来日本と留学先の国との懸け橋となるエキスパート人材の育成を目指す取り組み」(文部科学省)です。APUでは、秋学期はベトナムの大学で日本文化紹介等を行うことにより、派遣国・地域の人と信頼関係を構築し、日本語教育支援や国際交流に寄与することを目的としています。</p> <p>【授業の概要】 本プログラムでは4週間の現地実習の他に12回の事前授業と2回の事後授業を実施します。また、SENDの「派遣国と日本の架け橋になる」という目的に基づき、「グローバルな人間関係」の構築(文化的背景や立場、考え方の違う人と協働し、積極的に関わることができる)を学生全員が伸ばすべきコンピテンシーに位置付けます。事前授業では、ベトナムとベトナムの日本語教育について理解し、自己成長のためのルーブリックを作成し、チームワークを醸成します。実習中は、与えられた任務をチームで協力し合いながら行い、体験を通して感じたことや考えたことを毎日振り返り、自己・他者理解を深め、翌日の行動につなげます。事後授業では、現地での学びや葛藤、どのように能力を伸ばし態度が変化したのかについて共有します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 派遣国・地域の歴史、文化、日本語教育に関する理解を深め、文化的背景の異なる人とさまざまな方法を用いて相互理解をはかり、関係を深めることができる(異文化間コミュニケーション)。 2. グループメンバーと何でも言い合える関係を築き、グループと個人の目標を達成することができるよう励まし、協力し合うことができる(チームワーク)。 3. 様々なバックグラウンドを持った人たちと積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことができる(グローバルな人間関係)。 4. 学びの目標や自己成長の目標を明確に立て、振り返りを通して内省的考察ができるようになる(自己成長)。
授業方法	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則対面で実施します(新型コロナウイルス感染症の感染状況によりオンラインで実施する可能性あり)。 ・講義、個人発表、グループでの話し合いや発表があります。
毎回の授業の概要	<p>【事前授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 11/15(水) 4限 授業:オリエンテーション、ルーブリックについて、ベトナム社会や教育(一般的知識)に関する問いを立てる 課題:自己紹介、ルーブリック課題① ② 11/29(水)4限 授業:「問い」に関するディスカッション ③ 11/29(水) 5限 授業:やさしい日本語とは、日本文化についてのプレゼンテーションの仕方 課題:ルーブリック課題②、調査レポート ④ 12/13(水) 4限 授業:異文化間コミュニケーション ⑤ 12/20(水) 4限 授業:チームビルディング 課題:チームビルディングの振り返り、ルーブリック課題③ ⑥ 12/20(水) 5限 授業:振り返りの意義と方法 [グループ課題]日本文化紹介スライド ⑦ 1/10(水) 4限 授業:[グループ発表]日本文化紹介 ⑧ 1/10(水) 5限 授業:[グループ発表]日本文化紹介、修正 課題:グループ発表の振り返り ⑨ 1/17(水) 4限 授業:ベトナムの日本語教育

毎回の授業の概要	⑩ 1/24(水) 4限 授業:能力ルーブリックの校正、活動計画
	⑪ 1/24(水) 5限 授業:SEND経験者との懇談会、ベトナム語プチ講座 課題:事前学習の振り返り
	⑫ 2/14 (水) 2限(オンライン) 授業:現地での活動準備報告、最終調整
	(上記は、参加者数により内容が変更になる場合があります。) *1/25~2/22 グループで協力し、現地の先生と連絡をとり、活動計画を立て文化紹介や活動のスライド(5種類程度)を作成
	【事後授業】 ⑬4/17(水) 4限、⑭4/17(水) 5限 授業:実習の振り返り 課題:事後レポート、アンケート
実習スケジュール	【実習】2024/2/23(金)~3/23(土) ・平日:実習、準備、課外活動、派遣グループでの振り返り、リフレクティブジャーナル、コメント ・週末:実習準備、能力グループでの振り返り(オンライン可)、コメント ・実習中と後の課題:ルーブリック中間測定、ルーブリック課題④
授業外学習(予習・復習など)の内容と分量	【課題の内容と分量】 課題は、個人課題とグループ課題があります。事前授業は、ベトナムについての問いを立て、その問いにどのような解をもたらすことができるのか考えます。また、このプログラムで伸ばしたい能力を決め、目標設定をします。派遣グループの決定後、それぞれの目標を共有し、相互理解を促すチームビルディングを行い、グループ発表の予行練習をします。実習中は、短期研修という性質上、1日たりとも無駄にしないため、実習の質を高め、モチベーションを維持するために、毎日リフレクティブジャーナルを書き、次の行動につなげます。個人差はありますが、コメント書きを含め1~2時間ほど予定しておくとういでしょう。事後レポートは、実習と能力の振り返りをします。5~6時間はかかるので一度にはなく少ずつ作成しましょう。 【課題に関する注意事項】 ・課題はすべてMoodleの指定された窓口に提出してください。 ・提出期限は厳守してください。提出期限後であっても、24 時間以内に提出されたものに限っては採点しますが、その場合は得点を50%減じます(小数点以下は切り捨て)。
成績評価方法	5段階評価:A+ (90%以上)・A (80-89%)・B (70-79%)・C (60-69%)・F (59%以下=不合格)
	積極的な授業参加(授業中の発言や態度、実習評価など)15%
	個人課題と提出物(報告書、ルーブリック、アンケートなど)25%
	グループ課題(日本文化スライド、発表など)10%
	実習中の振り返りとコメント30%
	事後レポート(学習目標とコンピテンシーの振り返り) 20%
多文化協働学修の実践方法	【出席に関する注意事項】 ・授業は、5限のみの日と4・5限連続の日があるので気をつけてください。 ・本プログラムは、すべての授業と実習に参加することが条件です。試験や活動、研修、説明会などが入った場合、担当者に連絡して日程の変更をしてください。やむをえず授業を休む場合は減点となります。欠席する場合は、わかった時点で教員に連絡してください。休んだ授業の内容と課題は必ず自ら教員か受講生に確認してください。実習中の責任感と自律性を高めるために、こちらから連絡することはありません。無断欠席した場合、連絡が取れない場合、決められたことができない場合は、実習の安全性を保つために参加を取り消すことがあります。 ・遅刻は減点の対象となります。
	事前授業では、ペアやグループでのディスカッションを通して、ベトナムについての関心を深め、それぞれが伸ばしたい能力を共有します。また、派遣先のグループではチームワークを高め、現地での活動計画を立て、発表の練習をします。派遣中は、毎日グループで、週末は能力グループで活動を振り返ります。事後授業では、それぞれの学びを発表しフィードバックをします。
授業担当教員の実務経験	・日本語インストラクター:アメリカの小学校、高校、大学で日本語を教える ・異文化コミュニケーショントレーナー:アメリカの日系企業で、異文化間コミュニケーションワークショップの開発と実践
学生への要望事項	・本プログラムは、参加学生だけではなくベトナムの大学関係者や大学生に多くの影響を与えるプログラムですので、真剣に取り組んでください。 ・現地に行かなければ何が起きかわからないプログラムです。自分の思い描いた実習ができないことも多々あります。予期せぬ出来事や困難に出会っても、状況や人のせいにするのではなく、自分ができることを考え行動してください。先の見えない中であきらめず突き進む経験は大学生活だけではなく、卒業後の社会生活においても必ず役立ちます。 ・派遣大学との連絡や、皆さんのホームステイ先やベトナムでの生活のサポートをする現地協力機関のABROADERとのやりとりはすべて英語です。英語でコミュニケーションが取れるようスピーキング力も上げておいてください。 ・4週間の実習は、全力疾走が可能な期間です。実習後半に慣れてきますが、現状に満足せず、最終日まで挑戦し続けてください。 ・実習を通じて、現地の人と友情を育み、困難をチャンスと受け止めて、理解を深めてください。体調管理を心がけ、柔軟な態度で広い心を持って実習に臨み、経験を通しての学びをこれから自分が歩んでゆく人生の指針に加えられるよう、積極的に行動してください。

テキスト (授業を履修する上で、購入が必須となる書物) 備考	【教科書】 ・『現代ベトナムを知るための60章』今井 昭夫・岩井 美佐紀・坂田 正三・遠藤 聡(編著)2012年 明石書店 ・『ベトナムの基礎知識(アジアの基礎知識)』古田元夫 2017年 めこん (その他の資料や文献はMoodleで閲覧可能です。)	
テキスト (授業を履修する上で、購入が必須となる書物)		
参考文献備考	【参考文献】 ・好井裕明(2006)『あたりまえ』を疑う社会学－質的調査のセンス 光文社新書 ・好井裕明(2014)『違和感から始まる社会学』－日常性のフィールドワークへの招待 光文社新書	
参考文献(図書、視聴覚資料) ライブラリリザーブコーナーに設置		
参考文献(雑誌、年鑑白書等)		
備考	募集人数	21
	最少実施人数	5
	派遣地域安全情報(2023年9月12日現在)	危険レベル「なし」
	参加費(目安) ※実際の費用は受講者数確定後、再度案内します。	約260,000円 [上記に含むもの] ・航空券 ・宿泊費(ホームステイ)、空港⇄ハノイ・ホーチミン交通費、 宿泊斡旋料等 ・事前事後授業運営費 ・ビザ申請費、代行手数料 [上記に含まれないもの] ・海外旅行保険、危機管理サポート費用 ・教材費 ・日本国内交通費 ・現地交通費 ・現地生活費(食費含む) ・VISA取得費用(必要な場合) ・予防接種費(希望者のみ)
担当教員研究室電話番号	B棟4階 教員研究室B420(オフィス・アワー木曜 3限)	
担当教員E-mailアドレス	ktsutsui@apu.ac.jp	
E-Book および 関連ページ	特に無し	